

しらかわの 身近な文化財

第二十八話
奥州白河歌念仏踊
(安珍歌念仏踊)

奥州白河歌念仏踊は、福島県の重要無形民俗文化財に指定されている芸能です。

念仏踊とは、お盆や忌日、彼岸、命日などに死者供養などのために奉納される踊りで、福島県内ではいわき市のじゃんがら念仏踊などが有名です。念仏踊の特徴として、踊り歌や囃子詞の中に「南無阿弥陀仏」など、念仏の名残がみられるものが多くあります。

奥州白河歌念仏踊が伝わる地域のうち、活動している団体は減少の傾向にあります。市内の萱根根田地区では「安珍歌念仏踊」と呼ばれる念仏踊が継承されています。安珍とは、和歌山県の道成寺を舞台とする『道成寺物語』に登場する旅の僧です。地元ではその故郷が根田地区であると

言い伝えられており、安珍の墓と伝わる石塔も残されています。

この念仏踊は、安珍の命日とされる3月27日（以前は旧暦の2月27日）に、安珍の供養とともに村内安全や五穀豊穰を願い、地区内の安珍堂で奉納されています。鉦や太鼓の演奏と踊り歌に合わせて、地区の女性たちが安珍などに扮して踊ります。

近年では、地元の中学生たちへの伝承活動などが実施され、若い世代が地区の歴史や文化に親しみ、また地区内での交流を行う機会にもなっています。文化財を活用して、地域の輪をつなぐ事例であるといえます。

文化財課 ☎2310



▲安珍歌念仏踊の様子



▲安珍の墓と伝わる石塔（左）



高齢者

Vol.71

あったか広場

高齢福祉課高齢者支援係 ☎5519

家族（介護者）の気持ち

家族（介護者）が認知症を受け入れられるようになるまでには4つのステップがあると言われていますが、この通りに進むわけではなく、行ったり来たりを繰り返すことも多いです。

《第1ステップ とまどい・否定》

認知症本人の変化に家族はとまどい「認知症ではない、認知症だとは思えない」などの気持ちが働いて、認知症であることを否定しようとします。

《第2ステップ 混乱・怒り・拒絶》

本人の症状が改善されないまま日が過ぎると、家族は混乱し、注意をしても効果が見られないことに怒りの気持ちがわきあがります。そして、精神的、身体的に疲れ、本人を拒絶しようとしします。

《第3ステップ 割り切り》

第2ステップの混乱が繰り返されているうちに「これはどうにもできない、受け入れなければならない」という気持ちになってきます。

《第4ステップ 受容》

認知症に対する理解が深まり、あるがままの姿を受け入れられるようになります。

一人で抱え込まず、早めに本人の主治医や市、地域包括支援センターなどに相談してください。

